

意見種別	意見内容	備考
目指す子どもの姿	<p>どうい子どもに育ってほしいかというロマンを持ったまちづくりと、そのビジョンを掲げることが大切だと思う。このように数字に終始するだけでなく、親との対話を設けるような取り組みも良いのではないか。</p>	第2回会議 ①
	<p>保育所や幼稚園に入れる、入れないといった需要と供給の話もあるが、そもそも、草津市の将来を担っていく子どもが何をを目指すのかを示さないといけないと思う。</p>	第1回会議 ①
	<p>生まれてくる数少ない子どもにどうい子どもに育ってほしいのかということを考えないといけないのではないか。このような計画やプランを市が作った際に、市として、どうい子どもに育てるのかということを示すべきだと思う。</p>	第2回会議 ①
子どもが育つ環境	<p>この草津という地域で育つ子どもたちが、いろんな人と出会って、そして、この地域の自然、文化、そのようなものに触れながら、この草津というまちに愛着を感じる、豊かな体験の中で育っていく、そのような環境をつくっていくということも、この子育て支援事業の大きな柱である。</p>	第1回会議 ②
子どもの自尊心	<p>自分に値打ちがあると思っていない子どもが多い。自分に自信を持っていない子どもの過去を遡って行ったら、小さいときの問題・課題がある。自己尊重感とか、自己肯定感とか、自尊感情といったものを妨げているものは何かということ踏まえた上で、この会議を進めてほしい。</p>	第1回会議 ③
	<p>自尊心を育てるというのは、まさに多様な経験があり、多様な人とかかわり、多様な人間関係がなければ、そうした自己肯定、あるいは自信というもの育たない。そのような中で、「草津っ子」育み事業というもの大切にしてほしい。</p>	第1回会議 ③
量の見込み等の算出根拠	<p>すべての事業について、かい離の基準が10%となっているが、その基準に収まっていればよいということではないのではないか。</p>	第2回会議 ④
	<p>人口の推移だけでは推測できない需要の変化がこれから出てくる可能性があると思うので、いろいろと算出の根拠を考えてほしい。単純に人口をベースに考えるだけではなく、働き方の多様化がさらに進むと考えられるのであれば、時間外保育の重要性がさらに増すのではないかと思う。</p>	第2回会議 ④
情報発信	<p>計画と実績にかい離があるが、必要な人に必要な情報が届いておらず、潜在的な利用者に利用してもらえていない結果であるならば、かい離があるからといって計画値を下げるのではなく、計画値に達するように、必要な人に必要な情報発信をしていく視点で考えていただきたい。</p>	第2回会議 ⑤
	<p>計画の策定や見直しを考えていく場合に、行政は情報の発信力が弱いという指摘もよくされているので、情報発信をしながら、必要な人に必要な情報が届き、その人たちが適正に利用できる環境を整えられるように考えてほしい。</p>	第3回会議 ⑤
	<p>社会の環境、雰囲気の中で、必要な人が必要な制度やサービスが受けられる環境づくりが必要になってくるだろう。また、情報の発信やサービスの提供については、障害のある子どもを持つ家庭や子どもたちに対してのサービス、環境も問題となってきている。</p>	第3回会議 ⑤
子どもの居場所づくり	<p>草津市は子どもが遊ぶ場所が少ない。公園はあるけれど、どれも小さく、ボール遊びが禁止になっている。草津川の堤防できれいに整備するのも良いが、子どもが遊ぶ場所はそれほどきれいにしなくても、砂場でもいいのである程度広い場所をつくらないといけないのではないか。施設をつくってしまうと、その中に閉じ込めてしまうところがあり、また、サッカー場のような施設をつくっても、クラブや団体に所属している人はその施設を使えるが、単に遊ぶとする人はそういう施設も利用できない。そういうところを一般の子どもにも利用させてあげるようにするようなことも考えないと、本当に遊び場所がない。</p>	第3回会議 ⑥
	<p>放課後に子どもたちが地域で遊ぶことも難しいような状況がある。そのような子どもたちの安心・安全な居場所づくりということも、これからの子ども・子育て計画においては重要な視点だと思っている。</p>	第3回会議 ⑥
	<p>子どもの居場所という大きな枠の中で、子どもたちと地域の人たちの交流や体験が安心・安全に行われるような環境を整備するために、公園の整備や児童育成クラブ、放課後子供教室といった視点を持って、検討してほしい。</p>	第3回会議 ⑥
社会のあり方	<p>社会的に「子どもが病気のときは休ませてあげよう」という雰囲気が少しずつ広がっているように思う。一部の会社では休みにくいところもあるようだが、このような雰囲気が広がってほしいと思っている。また、このことはこの会議だけで考えるのではなく、社会全体が考えていかなければならないことだと思う。</p>	第3回会議 ⑦
社会のあり方	<p>病児保育事業について、本当に預けたい、預けないといけない親がどれほどいらっしゃるのかなと思う。子どもが熱を出してしまったら、親が仕事を休ませてもらえるように言える、また、職場の方も「そのような状況なら休んだらいいよ。あとのことはどうにかするよ。」と言える社会が本当は望ましいと思う。</p>	第3回会議 ⑦
働き方	<p>本当に働きたいと思っている母親、働けるようになった母親が社会復帰できるかということ、その枠がとても狭いように思う。だから、多くの方が早め早めに働いておこうという考えになってしまうのだと思う。求人を見ていると40歳以上の方には募集の枠がなく、女性の雇用の年齢を上げるようなことも大事だと感じている。</p>	第3回会議 ⑧
	<p>政策の中で子どもを持っていても女性も働けというような、また、それが当たり前だというような論調にとっても危機感を感じる。もちろん、働きたい人は働いてもいいと思うが、実は家にいたいけれど、家にいて「余裕があるのね」と思われるぐらいなら働こうというようなことにもなりかねない。そういう意味では、きちんと選択できるような社会になってほしい。</p>	第3回会議 ⑧
子育て観	<p>子どもは自ら育つ。それを大人が「育ててあげないといけない」と考えて、子どもは自ら生きて、育とうとする力を持っているという側面を見逃すと、やり過ぎてしまう。</p>	第1回会議

計画全般に関する意見

意見種別	意見内容	備考	
就学前の教育・保育	全国的には、子どもの数が増えるというよりも就労する母親が増える見込みである。現在の就業率は全国で73%ぐらいと言われているが、国は80%を目指していると聞いている。小さい子どもを預ける母親が増えるという意味で、今後も待機児童という問題は継続されるであろう。	第2回会議	⑨
	草津市も核家族化が進んでおり、おじいちゃん、おばあちゃんが遠くにおり、子どもを見てもらえないということをよく聞いている。そのようなところが、保護者が感じている問題ではないか。	第1回会議	⑨
	就学前人口が減少しているのに実績値が増えているということは、親が働くなどの理由で需要が増えているわけで、数年前からすでにわかっているはずだが、この資料だけを見ると、事前にはわかっていたのに、早めに策を打っていなかったように思える。	第2回会議	⑨
就学前の教育・保育	待機児童を減らすということが少子化改善になるのか。待機児童を減らすということが、たくさん子どもを産みたいという母親の層を作れるのか。	第1回会議	⑩
	家で安心して子育てができるようお金を使ってもらうために、補助金を出している市があることを知り、たくさんの選択肢があるということも必要だと思った。情緒の安定や心を育てる教育は、0歳から限られた時間の中でしかできないので、そこを安心して家で過ごしてもらい、また、家でも子育てできる環境を整えていく、そのようなところにお金を使ってほしい。	第3回会議	⑩
就学前の教育・保育	草津市に転入してきて、もう一人お子さんがほしいとおっしゃる親が増えてきている。今後、子どもが少なくなり、保育施設が余ってくるからといって、それほど悲観することはなく、良いまちにしたらいのではないか。	第2回会議	⑪
就学前の教育・保育	フランチャイズチェーンの保育所が増えている。国の指針では人数を確保したら、点数をよくするとか、基準を高くするということがあり、保育内容よりも定員を強調されているような気がしているので、認可するときの基準として、保育内容もしっかり考えてほしい。	第3回会議	⑫
就学前の教育・保育	保育所の枠から外れたので、地域のサークルに行こうかと、子育て観を考え直す方もいるので、そろそろ働きたいと思われた方のニーズに全て応えるのは、どうかと思う。	第1回会議	
	(保育所の入所には親の就労等の条件があることについて) 制度的な問題があるのであれば、その制度を直していかないといけない。施設のことだけ議論しても、需要と供給の問題になるので、設置できたりできなかったりする。	第1回会議	
放課後児童健全育成事業等	児童育成クラブについては、需要が増えていることは確実に言えると思うが、地域ごとに格差があり、学区によって、多い・少ない、または、入れる・入れないことが問題である。	第2回会議	⑬
	児童育成クラブとして民施設を作っていたが、ある学区には待機児童があり、一方で、ある学区では空きがあるという状況を見ると、誘導がうまくいっていないのではないかと感じる。	第2回会議	⑬
放課後児童健全育成事業等	養護学校に通っている子どもが放課後子供教室等に行けるようなシステムができあがってくるとすごく嬉しい。計画において児童育成クラブや放課後子供教室の数を増やしていくのであれば、同じように、障害を持つ子どものことについても考えていただきたい。	第2回会議	⑭
	児童育成クラブで障害を持った子どもを受け入れることで、いろいろな課題があり、全国的にも後ろ向きなところがとても多い。そのようなことも考えていかなければいけないので、量と質の両面からやっていけない限りは本当の意味での豊かな子育て環境はできない。	第2回会議	⑭
放課後児童健全育成事業等	児童育成クラブは子どもにとっての生活の場なので、支援員の役割が大きいと思う。大切な仕事なので、待遇の改善も検討してもらいたい。	第3回会議	⑮
病児保育事業	単純に利用者が伸びていないので計画値を減らすということではなく、利用者を増やすための方法を考えてもらいたい。働いている親には、「働き始めたときに、あらかじめ登録をしておいてください。」ということを知らせるとよいと思う。	第2回会議	⑯
子育て短期支援事業	障害がある子どもの親も働かないといけな方が増えてきていて、そのような中で、重度の障害がある子どもの親が、病気等の理由により、子どもを家庭で養育できないときに、ショートステイで預けられる公の施設が草津市にはない。	第2回会議	⑰

個別の事業に関する意見